

## 郷党第十

厩焚。

子退朝曰、傷人乎。

不問馬。

うまや や

厩 焚けたり。

し ちよう しりぞ い ひと そこ  
 子、朝より退きて曰わく、人を傷なえりや、と。

うま と  
 馬を問わず。

(10-248)

< 厩焚けたり。子、朝より退きて曰わく、人を傷なえりや、と。馬を問わず >

Q : 「厩焚けたり。子、朝より退きて曰わく、人を傷なえりや、と。馬を問わず」とは何ですか。

A : (1) 「ある時、孔子の家の馬屋が焼けた。役所から帰った孔子は尋ねた。『人に怪我はなかったか』と。その場では馬については尋ねなかった。(孔子は人間を第一に考える人であった)」の意。

(2) 「孔子の家のうまやが火事で焼けた。朝廷を退出して家に帰った孔子は、人に怪我はなかったかとたずねた。それっきりで、馬のことは問いたずねなかった」の意。

(3) 孔子は、馬を愛さない訳ではないが、人を傷つけんことを恐れる方が多かった。故に馬を問う暇がなかったのでは。